

「A I 半導体株、強気姿勢を継続」ブラックロック地口氏

2026/06/15 07:52 日本経済新聞電子版 1623文字

東京株式市場で人工知能（A I）・半導体関連銘柄の値動きが大きくなっている。ブラックロック・ジャパンでチーフ・インベストメント・ストラテジストを務める地口祐一氏はA I・半導体関連株に関し「強気スタンスを継続していく方針だ」と話す。



ブラックロック・ジャパンの地口祐一チーフ・インベストメント・ストラテジスト

——A I・半導体関連株が主導した最近の株高をどのようにみていますか。

「大きな社会の構造変化を促す出来事が進んでいると感じる。設備投資が一巡した後はハードウェア上のA I関連のコンテンツ産業が市場の焦点になるとみているが、足元ではテック企業の大型の新規株式公開（I P O）などで設備投資のさらなる拡大が期待されている。こうした動きが最近のテック企業中心の株高を演出している」

「今年3月末ぐらいから様子が変わってきた。1990年代終盤から2000年にかけての『インターネットバブル』と非常に似ている。企業が資金を調達して設備投資することで得られる将来のキャッシュフロー（現金収支）に期待した投資家が増えている印象だ」

——いまのA I・半導体関連株の上昇が「バブル」だとしたら、終わりはいつごろ迎えるのでしょうか。

「全然収益をあげていない企業がI P Oし、投資家がそういった企業に群がっていく時が熱狂のピークだろう。そういう時は必ずバーストしてしまうが、ここまではその展開となっていない」

「しっかり利益の出ている大型テック企業がA I投資を主導している。これらの企業がハードウェア投資をしていくということであれば、まだ投資のタイミングだ。いったんは利益確定売りが出てくると思うが、落ち着いた後は再び上値余地がある」

「グローバルなテックセクターでもいいが、日本では東証株価指数（T O P I X）の時価総額の多くを電子部品などエレクトロニクス企業が占める。A I・半導体関連株の上昇を追いかける動きになるとみしており、強気スタンスを継続していく方針だ」

——日米で株価が調整局面を迎えるリスク要因としては何が挙げられますか。

「米長期金利の上昇だろう。資金を借りて投資をしている人も多く、ギリギリのところまで借りている人は返済できなくなるかもしれない。そういう意味で金利上昇というのは最大のリスク要因だ」

——今週は日米で中央銀行が政策金利を発表します。日本では利上げ決定が見込まれ、米国でも政策金利の引き上げを示唆するかが注目です。

「（日米中銀の会合後に）イベント通過で懸念材料が払拭され、株式相場は持ち直す可能性がある。7月には企業の決算発表が始まるが、中東情勢の緊迫による悪影響が想定していたほど出でおらず、総じて良い結果になるとみている。堅調な企業業績を確認すると、『サマーラリー（夏場の株高）』のようになるだろう」

——日経平均の見通しを教えてください。

「市場のコンセンサスに基づく今期（27年3月期）の売上高から逆算し、営業利益が13～15%程度伸びるという見通しはフェアだ。その場合のバリュエーション（投資尺度）を計算すると日経平均のP E R（株価収益率、指数ベース）は20倍程度となる。今期営業利益が13～15%伸び、さらに年末から年度末にかけてP E Rが足元の24倍程度で維持される場合、日経平均は7万5000円程度の水準が想定される」

「多くの外国人投資家が日本の株式市場に参加している。今後も外国人投資家が同じ規模感で取引するのであれば、日本の成長を買いに来ているということになる。その際には足元でアンダーパフォームしている不動産株を選好するのがいいだろう。物価が毎年2～3%上がっていく局面では、不動産や金融業が投資対象として初めにくると考えている」

【略歴】地口祐一（ちぐち・ゆういち）氏 2013年ブラックロック・ジャパンに入社。チーフ・インベストメント・ストラテジストとしてグローバルな市場、多様な資産クラスを対象とした戦略運用を統括する。慶大経卒。

〔日経QUICKニュース（NQN） 聞き手は斎藤信世〕

許諾番号NK003469 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.